

「長浜市住生活基本計画」の改定にかかるパブリックコメントの実施結果について

■令和7年12月17日（水）から令和8年1月16日（金）

■意見の数 1名3件

■意見と意見に対する市の考え方

No.	意見（原文のまま）	市の考え方
1	<p>計画は「解決のための土台」にはなるが、実際の効果は今後の予算確保と事業実施次第で大きく変わると思います。また、市民アンケートをとられていますが、市域は広く住む地域によって問題意識に違いが生じるその点が不鮮明であり、この点を旧町毎に明確にしていただけではないでしょうか</p>	<p>ご意見のとおり、住生活基本計画の実効性は、今後の予算確保や事業の具体的な実施に大きく影響されるものと認識しております。本市としては「住環境における理想の姿・めざすべきらしのあり方」を自然体で共有し、それを実現するための各種施策に取り組んでいます。</p> <p>また、市民アンケートについては、地域ごとの問題意識の違いをしっかりと把握し、市域の多様な地域資源やニーズを踏まえた施策を旧市町あるいは郡部ごとに展開していくことも重要であると考えております。今後も、住環境向上をめざし、より細やかな対応に努めてまいります。</p>
2	<p>自治体としての主体性が見えないと感じました。</p> <p>・民間活力の活用・地域資源の再編・市独自の制度設計などを打ち出すと、「自分たちのまちを自分たちでつくる」という感覚が生まれます。そこで、国の補助金に頼り切らず、市の創意工夫で進められる政策を問題点として記載させていただきました。</p> <p>① 民間ストック（空き家・空きアパート）の最大活用</p> <p>●市がやるべきこと</p> <p>・空き家所有者とのマッチング制度・市が保証人になる「入居支援制度」・改修費の一部を市が「低額」で支援（国費なしでも可能）・空き家バンクの強化（情報の透明化）</p> <p>●財政負担</p> <p>建設費ゼロ、維持費ゼロ。必要なは事務費と小規模補助や地域コミュニティと連携した「住まい＋生活支援」モデルを示すべきではありませんか</p> <p>●具体策</p> <p>●地域の自治会・NPOと連携して見守りサービス・高齢者の住み替え支援（空き家発生の抑制）・商店街の空き店舗を住居＋交流拠点に転用を政策とすることで「行政だけでなく地域と一緒にやっている」・「地域の力を活かす＝自立したまちづくり」を目指すことを記載いただませんか</p> <p>●市独自の小規模・高効率な住宅支援制度を具体的に記載していただきたい。その大きな理由として、市民も人口減少が市に与える負担を共有いただき住宅政策の大切さを理解いただきたいと考えます。</p> <p>例</p> <p>②若者・子育て世帯の家賃補助（少額でも効果大）</p> <p>②移住者向けの「空き家お試し居住」制度</p> <p>②DIY型リフォームの支援（材料費補助など）</p> <p>②規制緩和</p> <p>②地区計画の「柔軟化」</p> <p>・歴史地区 → 勾配屋根必須</p> <p>・一般住宅地 → 勾配屋根は「推奨」に変更</p> <p>②民間事業者との協定（空き家再生事業者の登録制度）</p> <p>②市がリスクを一部だけ負う「部分保証制度」</p>	<p>ご意見のとおり、より良い住環境を構築するためには、長浜市が持つ自然環境や歴史・文化などの地域資源を活用し、行政と民間、そして地域間の連携を図ることが重要であると認識しています。</p> <p>本計画では、「新しい暮らしを生み出す住まいづくり」を活力向上の基本目標として掲げ、空き家の利活用や地域資源の活用を通じて、この目標を推進してまいります。また、市独自の住宅支援制度については、若者夫婦世帯や子育て世帯の住宅取得の支援、さらには空き家バンクを活用した移住・定住促進など、具体的な施策を盛り込んでおります。</p> <p>今後は計画期間中において、既存事業の進捗状況や成果を把握しながら、長浜市らしい住宅政策を展開していきます。これらの取り組みにより、豊かな住まいづくりの実現を目指します。</p>
3	<p>長浜市 住宅再生ロードマップ（3年・5年・10年）を記載いただきたいと思います。</p> <p>その例として</p> <p>【第1：3年で立て直す】</p> <p>「止血と基盤づくり」大規模投資はしない。市の負担を最小限にしながら、効果が大きい部分に集中する。</p> <p>① 住宅・移住政策の即効強化</p> <p>・空き家・空きアパートの借り上げ制度</p> <p>・DIY型リフォーム支援（低コスト）</p> <p>・子育て世帯の家賃補助（少額でも効果大）</p> <p>・移住者向け「お試し住宅」制度</p> <p>【第2：5年で反転させる】</p> <p>「魅力づくりと産業の再生」**ここから“攻め”に転じる。</p> <p>① 産業の再編と強化 → 若者が働ける場所を増やす。</p> <p>・中小製造業のDX化支援</p> <p>・地元企業 × 高校の人材育成</p> <p>・起業支援（小規模補助＋空き店舗活用）</p> <p>② 教育の魅力化（大学がなくてもできる） → “学びの都市”を作り、若者流出を抑える。</p> <p>・高校との連携強化</p> <p>・社会人大学・オンライン大学の誘致</p> <p>・企業研修拠点の整備</p> <p>・子ども向けSTEAM教育の導入</p> <p>③ 交通・生活インフラの改善 → 生活のしやすさが人口を決める。</p> <p>・バス路線の再編</p> <p>・高齢者の移動支援</p> <p>・自転車・徒歩の安全確保</p> <p>【第3：10年で持続可能な都市へ】 → 市が金を出すのではなく、市が仕組みを作る。</p> <p>「長浜モデルの完成」**長浜市は“衰退都市”ではなく“再生都市”に変わる。</p> <p>① 民間主導の都市再生</p> <p>・空き家再生企業の育成</p> <p>・民間投資を誘導する規制緩和</p> <p>・まちなか再生プロジェクト</p> <p>② 医療・教育・産業が循環する都市へ</p> <p>・医療法人の定着</p> <p>・企業と学校の連携が常態化</p> <p>・若者が戻る“循環型人口構造”の確立</p> <p>③ 財政の安定化</p> <p>・税収増（移住＋企業活性化）</p> <p>・施設の統廃合と効率化</p> <p>・基金の回復</p>	<p>ご提案いただいた内容につきましては、市内全体で共有しつつ、個別に検討すべき重要な視点であると認識しております。本計画では、住宅政策の基本理念と基本目標を設定したうえで、それらを達成するための具体的な取組や事業を掲げております。</p> <p>さらに、それぞれの取組・事業には達成すべき目標指標を設定し、適宜成果評価を行うことで、計画が目指す住環境の実現に向けて着実に取り組んでまいります。本計画は長浜市の住環境における「目指す姿」の全体像を示すものであり、具体的なロードマップについては各部門において定めています。</p> <p>なお、計画については、2ページに記載のとおり、計画期間の中間にあたる5年目に検証・評価を実施、必要に応じて見直しを図ります。また、各事業の進捗状況については、毎年度点検を行いながら、進捗管理を徹底してまいります。</p>